

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	GIST	
	タイプ	レビュー・コンセンサス	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Prognostic value of KIT mutation type, mitotic activity, and histologic subtype in gastrointestinal stromal tumors.	
	論文の日本語タイトル	GIST における KIT 変異型、核分裂数、組織学的亜型と予後の関係	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ()	
	ガイドライン上での目次名称		
書誌情報	研究デザイン	1.システマティック・レビュー 2.メタ・アナリシス 3.ランダム化比較試験 4.非ランダム化比較試験 5.コホート研究 6.症例対照研究 7.横断研究 8.症例報告 9.その他 ()	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Journal of Clinical Oncology	
	雑誌 ID		
	巻	20	
	号		
	ページ	3898-3905	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ()	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ()	
	発行年月	2002	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	S. Singer	Brigham and Women's Hospital
	その他著者 1	B. P. Rubin	Brigham and Women's Hospital
	その他著者 2	M. L. Lux	Brigham and Women's Hospital
	その他著者 3	C-J. Chen	Brigham and Women's Hospital
	その他著者 4	G. D. Demetri	Dana-Faber Cancer Institute
	その他著者 5	C. D. M. Fletcher	Brigham and Women's Hospital
	その他著者 6	J. A. Flethcer	Brigham and Women's Hospital
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		
	その他著者 11		
	その他著者 12		
	その他著者 13		
その他著者 14			

レビュー研究の6項目	目的	GISTにおけるKIT変異型、核分裂数、組織学的亜型と予後の関係を明らかにする。
	データソース	引用文献. 選択基準示されず。
	研究の選択	選択基準示されず。
	データ抽出	抽出基準示されず。
	主な結果	凍結材料のあるGIST 48例について臨床的・病理学的な検索を行なった。全体の5年無再発生存率は41%で、30高倍視野での核分裂数3以下では89%、核分裂数4-15では49%、核分裂数16以上では16%であった。紡錘細胞型GISTの5年無再発生存率は49%で、類上皮型または混合型での5年無再発生存率は23%であった。また5cm未満GISTの5年無再発生存率は82%、5-10cmでは45%、10cm超では27%であった。さらにexon 11のmissense変異の5年無再発生存率は89%、他のタイプの変異を持つGISTでは40%であった。独立した予後不良因子としてはexon 11の欠失または挿入型変異、30高倍視野での核分裂数15以上、混合型組織像、男性例であった。
	結論	KIT発現GISTでは、核分裂数と組織学的亜型が重要な予後因子で、c-kit遺伝子変異の部位やタイプも予後を規定する陰と考えられた。
備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	廣田誠一
	レビューワーコメント	GISTの予後を規定する因子として、核分裂数や腫瘍径、組織学的亜型とともにc-kit遺伝子変異の部位やタイプについて言及した論文である。